

Q. 15 授業でワークシートを使うことが多いのですが、何か気を付けることがありますか。

A. ノートやワークシートには、子どもたちに知識を習得させたり思考を活性化させたり、学びの振り返りをさせたりする働きがあります。そこで、何のためにワークシートを使うのかということを確認しておくことが重要です。

ノートとワークシートの大きな違いは何でしょう？ノートには、あらかじめ図や表、吹き出し、練習問題などは書かれてはいません。そこで、これらが示された共通のワークシートを活用することで、子どもたちの学びを促進させることができます。つまり、ノートに書かせることに加えて、補助的にワークシートを活用することが大切なのです。

○知識・理解を定着させる

算数で、計算技能の習熟を図るために、授業の後半で練習問題に取り組みさせることがあります。この時に、間違えた問いだけを集めた問題集を作って、授業の復習に活用させることで、子どもたちに自分の不得意な学習領域を自覚させることができます。

○思考を活性化させる

算数で、図形の面積を求める場合に、考える手がかりとして図形に補助線を引かせるためのワークシートを用いたり、理科の実験で予想を立てやすくするために、図で示した仮説から選択できるように準備したりすることもあります。このように、子どもに考える手がかりを与えたり、考えをもたせたりするために活用する工夫が考えられます。

○考えをまとめさせる

国語の物語文の読み取りにおいて、登場人物への思いをまとめさせるためのワークシートや、説明文の仕組みを構造化するために段落ごとに区切ったワークシートを準備したりします。このように枠を用意することで、子どもが考えをまとめやすくなることにつながります。

○学びを振り返らせる

小学校の生活科で、植物の成長記録を活字やイラストでワークシートにまとめ蓄積していくことで、植物の成長とともに子どもの学びを振り返ることができます。この蓄積が、子どもと教師の学習の足跡であり宝物となります。【Q. 6 参照】



※一般的に、文字や記号などを筆記する場合には、漢字表記の『書く』を、図や絵などの場合には『かく』や『描く』などを使うことが多いようですが、本書では『書く』を統一して用いています。

教科書『を』教える？ 教科書『で』教える？

教科書は学習指導要領に基づいて作成されていますので、必ず使用しなくてはなりません。私たちは、教科書という教材を通して学習指導要領に示された内容を教えることになっているのです。ただし、教科書の内容をそのままぞるだけでは、教科書**を**教える授業になってしまいます。教科によっては、教科書**を**教えるということもありますが、子どもたちにどんな力を付けたいのかということを考えた時に、教科書**で**教えるという発想はとても大切です。例えば、国語の説明文では、1つの文章の読解に終わるのではなく、そこで培われた力が他の説明文を読んだり、文章を書いたりする時に活かされるような指導が必要となってくるのです。



教具は授業の名脇役！？

教科書が授業の主役だとすれば、教具は授業の名脇役といえるでしょう。教具には、活字のものや写真、模型、CD、DVD、スライドなどさまざまなものがあります。いずれも視聴覚や触覚に訴えるものです。授業で付けたい力に即した教具を使用することによって、その効力は大きく発揮されます。また、それぞれの教具の特質をよく理解して活用することで学習指導の効果は高まります。

